

るに若人は若人の熱誠と團結の力とを依
 りて若々の地位を水平線に向上し、昔の不合
 理不當たる政策を掃りたる徳川氏よりは充分な
 る責任を負ふべきはありぬ。演説の最後如
 如斯くして終りたるも巨大なる體軀、素然た
 る姿態、莊重なる熱帯帶の常鱗凡具にあ
 りざるを思はしむるものあり、殊に近眼
 鏡の底に走る切水の長き眼は筆若に最も深刻
 なる印象を與へたり、傍人の囁く要みたりは
 往者には未だ四十歳には尙やせざるも、此平社は

1020 H 特選

勿論北九州の下等社會としては初め如く崇拜さ
 るる人物にして、藤野は土木請負業たるも然諾
 を重する親分肌と大事に當りて自若たる態度
 とは遂に今日の如き勢望を贏ち得たるありと
 する、同僚同形の人物に吉田磯吉、内田良平
 等あるも其の性格の輪郭は已に明瞭たるも、
 松本は一即の如き傳統的性格の持主にこそ新
 軍勳の鼻者たる増尾は如何なる経歴と飛躍を
 招來するものなるか筆者は此の疑問を懷きつ
 一即若の平前と同市外千代の松原ある松本の別